

Ⅲ 経済分析手法の開発

日本産業連関ダイナミックモデル（JIDEA）の構築（更新）と活用

イ. 調査の目的

本年度は、よりモデルの精度を高めるため、JIDEA7の開発を行った。

ロ. 調査結果の概要

JIDEA6 との変更点は、1.従来 1985 年から 2005 年までであった観測期間を 2006 年までに延長したこと、2.予測の最終時点を 2015 年から 2020 年に延長したこと、3. 雇用データを刷新したこと、である。

さらに本年度は、昨年度発見した 1.価格の変化が上手くトレースできていないこと、2.需要サイドの予測値において中間投入額を含めると生産額が一致しないという問題が存在すること、3. 2006 年の一部予測値が跳ね上がるという問題点についても修正を加え、問題点を解決した。

また、中間投入構造の変化をモデルに反映する方法について INFORUM と検討し、その結果をモデルに反映させた。

なお、2008 年 9 月には北トルコ共和国で開催された第 16 回 INFORUM 国際会議で、新モデルを利用した成果を、下記タイトルで発表した。

- ・ The Japanese Labor Force in Future with JIDEA7 simulation
- ・ The Evaluation of technological progress in Japanese Economy- using JIDEA7
- ・ Trade and Labor Productivity Effects on the Changing Structure of Employment in Japan
- ・ Labor Share in the Change of Japanese Industrial Structure

モデルを利用した業績・報告書には以下のものがある。

- ・ 原油価格上昇が日本経済に与える影響（季刊国際貿易と投資、2008 春号）
動学的計量モデルを利用した試算
- ・ 生産技術の変化が経済に及ぼす影響計測（季刊国際貿易と投資、2008 夏号）
JIDEA モデルによる計測
- ・ 生産技術の変化が経済に及ぼす影響計測（季刊国際貿易と投資、2008 冬号）
JIDEA モデル(ver.7)による計測
- ・ サプライム・ショックの雇用に対する影響（季刊国際貿易と投資、2008 冬号）
JIDEA モデルによるシミュレーション